

2021年9月10日

報道関係各位

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

大量の紙文書の電子化を行う「富士フィルム RIPCORDER 文書電子化サービス」を取り扱い開始
ロボティクス技術とAIによる電子化で業務のデジタル化に貢献

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社(代表取締役社長:柘植 一郎、本社:東京都港区、略称:CTC)は、富士フィルム RIPCORDER 合同会社(CEO:山口 幸一、本社:神奈川県中井町)の、企業内に蓄積された大量の紙文書をロボットが高速に電子データ化し、自動的に分類してクラウドに格納する「富士フィルム RIPCORDER 文書電子化サービス」の取り扱いを本日から開始します。紙文書を電子化したい官公庁、金融業、製造業や流通業を中心に展開し、3年間で10億円の売上を目指します。

近年、企業のデジタルトランスフォーメーション(DX)を目的とした業務のペーパーレス化やデジタル化が進んでいますが、大量の紙文書を保管している企業では、電子データ化にかかる納期やコスト、スキャン精度の品質などの観点に加え、スキャン後の電子データの分類やタグ付けなど、人手を要する膨大な作業に対応できないことがDXを推進する際の阻害要因の一つになっていました。

富士フィルム RIPCORDER が日本およびアジア太平洋地域で提供している文書電子化サービスは、ロボティクス技術とAIを使用した紙文書のスキャンサービスで、従来では不可能だった数億枚の文書を短納期且つ低コストで電子データ化します。紙文書のスキャン時にホチキス位置をロボットが特定し自動で外すことに加え、紙文書をイメージデータ化した後は、文字認識(OCR)とAI技術でタイトルやタグなどの属性データを自動で抽出し、クラウド型のコンテンツ・サービス・プラットフォームに分類して保存します。

ユーザー企業は、どこからでもアクセスできるクラウド型のコンテンツ・サービス・プラットフォームに保存された電子データを活用することで働く場所を限定しないペーパーレス化が推進できるとともに、保管倉庫や廃棄物の削減を通じた、環境負荷の低減を図ることができます。

CTCは、富士フィルム RIPCORDER 文書電子化サービスが提供するAPI(Application Programming Interface)機能を活用し、クラウド型ストレージサービス、ワークフローシステム、CRM、BI、基幹系システムなどとの連携ソリューションを提供することで電子化された紙文書データの利活用を促すとともに、データの活用状況を可視化するプロセスマイニングによる業務改善の提案を通して、お客様企業のDXに貢献していきます。

今回のプレスリリースにあたり、以下のコメントをいただいております。

富士フイルム RIPCORDER 社は、伊藤忠テクノソリューションズが当社のパートナーに加わったことを心より歓迎いたします。多様な IT ソリューションと業務アプリケーションのノウハウを持つ伊藤忠テクノソリューションズとの提携で、紙の電子化から業務プロセス改善までエンド to エンドで一貫したサービスをお客様に提供できることと確信しております。

富士フイルム RIPCORDER 合同会社 CEO 山口幸一

■富士フイルム RIPCORDER について

富士フイルムビジネスイノベーション株式会社(設立当時富士ゼロックス)と米 RIPCORDER 社により 2020 年 9 月に設立。出資比率は 50:50、資本金 1 億円。紙文書イメージデータ化、およびデータ活用のための自動化やシステム連携を通じたデジタルトランスフォーメーションの支援サービスを行っている。

本件に関連するソリューション Web サイト

<https://www.ctc-g.co.jp/solutions/fromdoc/>

※記載されているサービス名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

※掲載されている情報は、発表日現在の情報です。最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。

以上

<報道機関からのお問い合わせ先>
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
広報部
E-mail: press@ctc-g.co.jp